

# 深沢地域の 新しいまちづくり 基本計画



平成 1 6 年 9 月

鎌 倉 市

## はじめに

昭和62年の国鉄改革に伴い、JR大船工場(現、鎌倉総合車両センター)周辺に約8.1ヘクタールの国鉄清算事業団(現、鉄道建設・運輸施設整備支援機構)用地が誕生したことを契機に、本市では、第3次鎌倉市総合計画において「深沢地域国鉄跡地周辺総合整備構想」を主要な都市整備構想の一つに位置づけ、国鉄跡地周辺を新しい都市拠点としてまちづくりを進めていくこととしました。

深沢地域のまちづくりは、「市民と行政のパートナーシップ(協働)」のもと、平成8年1月に、地域をはじめとする市民、商業者、企業、公共的団体、さらに学識経験者の方々により「深沢地域の新しいまちづくりの基本計画(素案)」がまとめられ、これを踏まえて平成8年12月に行政計画としての「深沢地域の新しいまちづくりの基本計画(案)」を策定しました。

その後、国鉄清算事業団用地全体の約75%にあたる約6.1ヘクタールを取得できたこと、また、JR大船工場の機能廃止の動きや、JR梶原社宅の一部廃止など、深沢地域を取り巻く社会状況が大きく変化しました。

そこで、これまでの基本計画(案)をより実現性のあるものとするために、昨年10月に市民参加による「深沢まちづくり協議会」を設置し、「基本計画(案)」の再検証を行い、本年5月に「深沢地域の新しいまちづくり基本計画」の提言をいただきました。

そしてこのたび、この提言をもとに、行政計画としての「深沢地域の新しいまちづくり基本計画」を策定いたしました。

策定いたしました基本計画では、「ウェルネス」をまちづくりのテーマとし、5つのまちづくりの目標を掲げております。この目標を実現するためのまちづくりの基本方針として、土地利用の方針など4つの方針を定めるとともに、まちづくりを実現するための考え方を示しています。

今後は、この基本計画を道しるべとして、市民と行政がともに共有しながら、適切な役割分担のもとに深沢地域のまちづくりを実現していくこととなります。

とりわけ、市が取得している用地やJR大船工場等を中心に、この基本計画を着実に推進するために、関係機関と調整を図りながら、鎌倉駅周辺、大船駅周辺に次ぐ第三の拠点として、深沢地域の新しいまちづくりの早期実現に向け取り組んでまいりたいと考えておりますので、市民の皆さんのさらなるご協力をお願いいたします。

この基本計画の策定にあたり、熱心にご議論いただいた深沢まちづくり協議会の委員の皆さんをはじめ、貴重なご意見や多大なるご協力をいただきました市民の皆さん、関係団体・関係機関などの方々に心より感謝申し上げます。

平成16年9月

鎌倉市長 石渡 徳一

## 目 次

序 章	深沢地域のまちづくりをめざして	1
	1. 基本計画策定の背景と目的	1
	2. まちづくりの範囲	2
	3. まちづくりの経緯	3
	4. 基本計画の役割と位置づけ	5
	5. 計画書の構成	6
第 1 章	深沢地域の現況と課題	7
	1. 深沢地域の位置づけ	7
	2. 現況と課題	9
第 2 章	まちづくりの基本理念と目標	13
	1. まちづくりの基本理念	13
	2. まちづくりの目標	14
第 3 章	まちづくり計画	17
	1. まちづくりの基本方針	17
	1) まちづくり計画の構成	17
	2) まちづくりの基本方針	17
	2. 土地利用の方針	18
	1) 土地利用区分の設定	18
	2) 土地利用区分別整備方針	18
	3. 交通の方針	23
	1) 道路等の整備方針	23
	2) 公共交通等の整備方針	26
	4. 緑と水辺空間、環境・景観の方針	29
	1) 緑の整備方針	29
	2) 水辺空間の整備方針	32
	3) 環境・景観の整備方針	33
	5. 機能の導入方針	41
	1) 深沢地域の機能の導入方針	41
	2) 面整備ゾーンの機能の導入方針	43
第 4 章	まちづくりの進め方	47
	1. まちづくりの実現の考え方	47
	1) 面整備ゾーンのまちづくりの進め方	47
	2) その他ゾーンのまちづくりの進め方	47
	2. 整備主体の考え方	48
	3. 整備手法の考え方	49